

1032. Krull / 理想ニツイテ, III

中山 正 (阪大)

I、II デ Krull / *vollständig ganz-abgeschlossen* + 整域 = 関スル 予想 = 対スル 反例ヲ / ベク。
コノ 予想 / 反例ガ 出来タ 以上 大体 期待シ ヲル コト ガ アルガ、
同様ニシテ Krull / 他ノ ミウ ツノ 問題 (トイフ ホド 大
キト 素テハ + イカ) ヲ 解決スル コトガ 出来ル。

即チ Zeitschr. 41 / 前ニモ 引用シテ 論文デ 「vollständig ganz-abgesch. + 整域テハ 恒常ノ 主イ
デヤルガ höchst-dimensionale + Primärideale
ノ Durchschnitt トシテ 表ハサレル | トイフ 様ニ コト
ガ アルカモ 知レ + イト 述ベテアル (659 頁 / 脚注 9)。

(コノ = *höchstdimensional* + *Primärideal*
トハ *minimal* + 素イテヤル 一属ナル *Primärideal*
ノ コトガアル。上記ノ コトハ 例ハ心 尤モ 簡單 + 場合ヲ イヘバ

超曲面の既約 + 超曲面 = ワカルコト = 嗜ル (ソシテ勿論ソレハ正レイ)。

以下コノ問題モ否定的 = 解決サレルコトヲ述ベル。

I, II = 於ケルト同様 = 適当 + complete ぶ一有束 (タトヘバ $(0, 1)$ ノ前集合 mod. nowhere dense set ノナスぶ一有束) ノ表現空間ナル totally disconnected びニむはくヒ空間 Ω テ、ソノ任意ノ点 p = 對シテ $f(p) = \infty$ テアツテ ∞ = ナルノハ nowhere dense set = 於テノミナル整数及ビ $\pm \infty$ ノ連続函数 f が存在スル如キモ、ヲ考ヘル。

II = オイテ Ω ノ各点 p = 変数 x_p ノ型式的 = 對應サセ、多項式列 $\{F(p_1, \dots, p_s), P\}$ ナル概念ヲ導入シタ。 (コノ P = \mathbb{P} 八 Ω = オケル第一種集合) ソノ全体ハ一ツノ *vollständig ganz-abgeschr.* + 整域 R ノナシ、ソレガ Krull ノ豫想ノ反例 = ナツテナルデアツタ。

今 R ノ次ノ如キ一ツノ部分整域 R_0 ノ考ヘル。即チ多項式列ノ中テ

(*) P = 属サヌ点 p_1, \dots, p_s = 對シテ近傍 U_1, \dots, U_s ノ適當 = トレバソレゾレ U_1, \dots, U_s = 属シ P = 属サヌ q_1, \dots, q_s = 對シテハ $F(q_1, \dots, q_s)$ 八 $F(p_1, \dots, p_s)$ カラ単 = 変数 x_{p_i} ノ x_{q_i} トシタモ、 = ナツテナル。

トイフ條件ヲミタシテナルモ、ノ全体ヲ R_0 トスル。 R_0 が

環ヲ, 即チ R ノ部分整域ヲナスコトハ明カデアル。

而モ R_0 ノ二元 $\{F_1; P_1\}, \{F_2; P_2\}$ = オイテ前者
カ R ノ中デ 向者デアレルヲラバ R_0 ノ中デモ レル。即チ
 $\{F_1; P_1\} = \{F_2; P_2\} \{F_3; P_3\}$ ($\{F_3; P_3\} \in R$) ナ
ラ當然 $\{F_3; P_3\} \in R_0$ デアル。コレモ容易ニ明カデア
ラウ。

コノ事カラ R_0 モ *vollständig ganz-abgeschr*
タルコトガワカル。

扱テ R_0 ノ一ツノ元 $\{F; P\}$ ヲ考ヘル。或ル $P \in \Omega - P$
ヲ考ヘル。 P ヲツクム $\{P, P_1, \dots, P_S\}$ ($P_1, P_2, \dots,$
 $\dots, P_S \notin P$) = 對シテ多項式 $F(P, P_1, \dots, P_S)$ ヲワ
ルル Ω_P ノ最高巾ヲ $f_P(P_1, \dots, P_S)$ デ表ハス。然ラバ $\{P,$
 $P_1, \dots, P_S\}$ カ $\{P, P_1, \dots, P_t\}$ ノ一部分ナラバ
 $f_P(P_1, \dots, P_S) \geq f_P(P_1, \dots, P_t)$ デアル。

故ニ或ル $\{P, P_1, \dots, P_S\}$ ガアツテソレヲツクム
 $\{P, P_1, \dots, P_t\}$ ($P_1, \dots, P_t \notin P$) = ツイテハ $f_P(P_1,$
 $\dots, P_t)$ カスベテ一定ニナツテキル。今ソノ値ヲ f_P
デアラハス。コレニヨツテ $\Omega - P$ ノスベテノ点 P = 對シテ f_P
ナル整数 (≥ 0) ガ映ヘラレル。

而シテ (*) ナル條件カラ日月ヲカナル如ク f_P ハ $\Omega - P$
デ連続デアル。ヨツテ $\Omega - P$ デハ $f(P) = f_P + \text{ル}$ Ω
全体ニ於ケル整数及ビ $+\infty$ 値連続函数 f デ $+\infty$
ニナルノハ nowhere dense set ノミナルモ、が存在
スル。

Ω は整数及び $\pm\infty$ の値連続函数 $\pm\infty$ となる、
 nowhere dense set となる、 Ω の全体ハーツの
 complete + 束群 \mathcal{L} を示し、以前これを考察してソレ
 ハイカナル實数値的数 \mathcal{L} が表現出来ることヲ述ベタ
 ンデアッタ。即チ f ハ \mathcal{L} の束群 \mathcal{L} の元デアアル。即チ R_0 の元
 $\{F; P\} = \Omega$ の元 f が對應スル。

R_0 の二元 $\{F; P_1\}, \{G; P_2\}$ 一對シテ上ノ如キ f, g ,
 g ヲ考ヘレバ $P_1 \cup P_2 = P$ 屬サヌ $f =$ 對シテハ兩元ノ和 $=$ 對
 スル同様ノ函数 h $h \geq \min(f, g)$ デアルカラ
 兩元ノ和 $=$ 對應スル \mathcal{L} の元 h $h \geq f \wedge g$ ヲミタス。
 同様ニシテ兩元ノ積 $=$ 對應スル \mathcal{L} の元 h $h = f + g$
 ナルヲ知ル。

サテ、 Ω の一 points ヲ考ヘル。上ノ考察ニヨリ $f(p)$
 $= +\infty$ となる R_0 の元 $\{F; P\}$ の全体ハ (空デナイ) い
 ても Ω ヲミタス。而モ素いでやるナルコトモ上記ヨリ明カ
 デアル。

今整域 R_0 の任意ノ一ツノ minimales Prim-
 ideal \mathcal{P} ヲ考ヘル。二ツノ場合ヲ考ヘル。 1) アル
 $f \in \Omega =$ 對シテ $\mathcal{O}_f \subseteq \mathcal{P}$ (實ハ $I =$ オイテ述ベタ注意
 卜同様ニ空ハコノ場合ハオコラナイ) 2) イカナル $f \in \Omega$
 $=$ 對シテモ $\mathcal{O}_f \not\subseteq \mathcal{P}$.

先ツ 1) の場合 $=$ ハ \mathcal{P} の minimal 故カラ
 $\mathcal{O}_f = \mathcal{P}$.

2) の場合。イカナル $f =$ 對シテモ、 \mathcal{O}_f の元

$\{F^{(\mathfrak{P}_1)}; P^{(\mathfrak{P}_1)}\}$ は \mathcal{P} = 属 \mathfrak{P}_1 なる \mathfrak{P} の元 \mathfrak{P} である。 \mathfrak{P} に対応する $f^{(\mathfrak{P}_1)} \in \mathcal{A}$ は $f^{(\mathfrak{P}_1)}(\mathfrak{P}) = +\infty$ となる。 \mathfrak{P} の適当な近傍 $U_{\mathfrak{P}}$ においては $f^{(\mathfrak{P}_1)}(\mathfrak{P}) \geq 1$ ($\mathfrak{P} \in U_{\mathfrak{P}}$) となる。 同様に $U_{\mathfrak{P}_2}$ の有限個 $U_{\mathfrak{P}_1}, \dots, U_{\mathfrak{P}_n}$ は \mathcal{A} をカバーする。

$$\{F: P\} = \{F^{(\mathfrak{P}_1)}; P^{(\mathfrak{P}_1)}\} \dots \{F^{(\mathfrak{P}_n)}; P^{(\mathfrak{P}_n)}\}$$

トスレバ \mathcal{P} の素いでもなるから、この元は \mathcal{P} である。 \mathfrak{P} に対応する \mathcal{A} の元 f は $f = f^{(\mathfrak{P}_1)} + \dots + f^{(\mathfrak{P}_n)}$ であり、従って \mathcal{A} のすべての点で ≥ 1 である。

今 $\{X; \emptyset\}$ を与え、 $\mathfrak{P}_1, \dots, \mathfrak{P}_s \in \mathcal{A} = \mathcal{P}$ として $X(\mathfrak{P}_1, \dots, \mathfrak{P}_s) = x_{\mathfrak{P}_1}, \dots, x_{\mathfrak{P}_s}$ なる多項式列 ($\in \mathcal{P}_0$) を与える。 これは \mathcal{A} の元 $\mathbb{1}(\mathbb{1}(\mathfrak{P}) - 1) = \text{他}$ となる。

上記 1) の場合勿論 $\{X; \emptyset\} \in \mathcal{P}$ である。 2) の場合 $\in \mathcal{A}$ の第一種集合 P を除いて $\mathfrak{P}_1, \dots, \mathfrak{P}_s = \mathcal{P}$ として $F(\mathfrak{P}_1, \dots, \mathfrak{P}_s)$ が $x_{\mathfrak{P}_1}, \dots, x_{\mathfrak{P}_s}$ である。 故に $\{F; P\}$ の \mathcal{P}_0 の中で $\{X; \emptyset\}$ である。 故に $\{X; \emptyset\} \in \mathcal{P}$ である。

\mathcal{P} のイカナル *minimales Primideal* は $\in \mathcal{P}$ である。 故に $\{X; \emptyset\}$ のイカナル *minimales Primideal* は $\in \mathcal{P}$ である。

故に勿論イカナル *höchst dimensionales Primärideal* は $\in \mathcal{P}$ である。 シカシ勿論主いでなる $\{X; \emptyset\}$ の *unit ideal* は $\in \mathcal{P}$ である。 コレが始

ニ述ベタコトノ反例が出素々。
